

第5号様式

木竹伐採概要書

1 森林地内の伐採	1 林相	(ア)針葉樹林 (イ)広葉樹林 (ウ)針広混交樹林 (占領面積比 針：広) (エ)竹林			5 伐採区域面積	m ²	摘要
					6 伐採量	m ³	
					7 伐採方法	(ア)皆伐 (イ)択伐 (択伐率 %)	
					8 伐採主要樹種		
	2 林齢又は林齢範囲				9 伐採跡地の処理方法		
	3 疎密度						
	4 隣接地の現況						
2 森林地外の伐採	2-1 集団をなす立木竹の場合	1 隣接地の現況			2 伐採区域面積	m ²	摘要
					3 伐採方法	(ア)皆伐 (イ)択伐 (択伐率 %)	
					4 伐採量	m ³	
					5 伐採主要樹種		
					6 伐採跡地の処理方法		
2-2 独立木の場合	1 樹種名	2 樹齢	3 樹高	4 目通幹まわり	5 数量	摘要	
		約年	m	m	本		
3 建築敷地内の伐採	1 樹種名	2 樹齢	3 樹高	4 目通幹まわり	5 数量	摘要	
		約年	m	m	本		

備考

- 1-1については、該当する番号に○印をつけて下さい。なお、該当行為が2つ以上にわたる場合は、それぞれに○印をつけて下さい。
- 2・2-1・3については、該当する番号に○印をつけて下さい。また、(イ)に該当する場合は、択伐率を()内に記入して下さい。
- 1-3の「疎密度」は、樹冠投影面積の10分比でもって表して下さい。
- 1-4、2・2-1の「隣接地の現況」欄には、土地の状況、立木竹、建築物、その他の工作物の有無とその種類等を記載して下さい。
- 1-7-(イ)、2・2-1・3-(イ)の「択伐率」は、伐採区域における総材積に対する択伐量を言います。
- 1-9、2・2-1・6の「伐採跡地の処理方法」欄には、植栽、放置等を記入して下さい。
- 2・2-2・4、3-4の「目通幹まわり」とは、1.5メートルの地上高の幹周長で、双幹以上のものは、各幹まわりの合計の70%を採り、1.5メートルのところは枝の分かれ目のときはすぐ上部の寸法を採用して下さい。